

2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月9日  
東

上場会社名 株式会社廣濟堂 上場取引所  
 コード番号 7868 URL <https://www.kosaido.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 根岸 千尋  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営戦略本部長 (氏名) 野口 龍馬 (TEL) 03-3453-0557  
 四半期報告書提出予定日 2021年2月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	21,787	△14.5	869	△31.6	789	△35.2	△331	—
2020年3月期第3四半期	25,490	△2.2	1,271	△3.2	1,219	△3.2	△470	—

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 △520百万円( —%) 2020年3月期第3四半期 387百万円( 139.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	△13.30	—
2020年3月期第3四半期	△18.89	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	66,276	30,489	45.8
2020年3月期	82,190	31,001	37.6

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 30,367百万円 2020年3月期 30,880百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年3月期	—	0.00	—		
2021年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正につきましては、本日別途公表の「配当予想の修正(無配)に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	30,000	△14.5	1,400	△39.9	1,200	△45.7	△400	—
								△16.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年3月期3Q	24,925,300株	2020年3月期	24,922,600株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	10,566株	2020年3月期	10,486株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年3月期3Q	24,913,644株	2020年3月期3Q	24,912,205株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想に関する注意事項等につきましては、添付資料3ページの「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、新型コロナウイルス感染の拡大が継続し、消費活動や企業活動に大きな影響を及ぼしており、依然として厳しい状況が続いております。また、わが国経済では、5月の緊急事態宣言解除後の経済活動の回復により景気の持ち直しの動きが見られたものの、新型コロナウイルス感染の再拡大により経済の先行きの不透明感が強まり、当社グループの情報ソリューション、人材サービス及び葬祭の各事業に関連する業界においても、当面厳しい状況が続くものと見込まれます。

このような状況のもと、当社グループは、2020年5月15日公表の新中期経営計画の重点施策である、工場再編の一環としての豊中工場の9月閉鎖、及び希望退職の募集を実施するとともに、印刷、企画、IT、BPO等を複合的に組み合わせたソリューション提供の強化、求人媒体における紙からWebへの転換加速、完全子会社化した東京博善株式会社との連携強化等に取り組み、加えて、外注費、販管費等の費用削減を行うことで、業績の向上に努めてまいりました。また、当社グループにおきましては、新型コロナウイルスの感染予防対策として顧客、取引先及び従業員の安全確保を図りながら事業活動を行っております。具体的には、テレワークや時差出勤、オンライン会議の活用、職場におけるソーシャルディスタンスの確保や、継続稼働を要する工場、斎場のためのマスク・消毒液の確保などの感染防止策を実施し、事業活動を引き続き継続してまいりました。その結果、連結売上高は217億87百万円(前年同四半期比14.5%減)、連結営業利益は8億69百万円(同31.6%減)、連結経常利益は7億89百万円(同35.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失は3億31百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失4億70百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

前連結会計年度より、経営管理区分及び組織の見直しを行ったことに伴い、「情報」セグメントから「情報」及び「人材」の2区分に変更しております。なお、ゴルフ場の資産所有及び管理事業等で構成されておりました「その他」セグメントは、唯一のゴルフ場所有会社「株式会社トムソンナショナルカントリー倶楽部」の株式を2020年6月8日付で譲渡し、当セグメントを構成する事業が無くなりましたので、第2四半期より記載しておりません。

#### ・情報セグメント

情報セグメントは、主に情報ソリューション事業及び出版事業で構成されております。

情報ソリューション事業は、出版印刷、商業印刷を始めとする印刷関連ソリューションと、IT受託開発を中心としたデジタルソリューション、データ入力代行やコールセンター業務などお客様の事業をサポートするBPOサービス、そしてエコを中心としてタイムリーな商品提案を行うプロダクト営業で構成されております。出版事業は、教科書・補助教材等の教育図書の企画と出版で構成されております。

情報セグメントにおきましては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が継続し、セグメント全体で売上高が対前年同期で大幅な減収となり、利益面でも損失計上となりましたが、固定費等の経費削減や前期の不採算子会社の譲渡により、前年同期より損失額を縮小しております。当セグメントを構成する各事業の状況は以下のとおりです。

情報ソリューション事業では、出版印刷分野で外出自粛による一部書籍の需要の堅調な推移や、大型のBPO案件の受注増加等がありましたが、一方で新型コロナウイルス感染拡大による市況悪化の影響を大きく受けた商業印刷分野では、プロモーションやイベントの中止、旅行パンフレットやカタログ等の販促物の需要減少等が継続しており、その結果、情報ソリューション事業は大幅な減収となりました。なお、利益面では損失計上となりましたが、コスト削減等により損失額は前年同期より縮小しております。

出版事業では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が継続し、学校教材の受注が低調に推移したこと等により、売上高は減収、営業損失の計上となりましたが、前期の不採算子会社の譲渡により、損失額は前年同期より縮小しました。

以上の結果、セグメント売上高は124億42百万円(前年同四半期比16.2%減)、セグメント損失は2億6百万円(前年同四半期セグメント損失3億54百万円)となりました。

#### ・人材セグメント

人材セグメントは、求人媒体事業を始めとして、人材紹介・人材派遣、RPO(リクルートメントプロセスアウトソーシング)、海外(ベトナム等)における、人材紹介、人材教育・研修、日本語教育、留学サポート等の事業

を手掛けており、人材の発掘から採用、教育・研修まで、総合的な人材ソリューションを提供しております。

当セグメントでは、人材派遣事業及びHRテック事業は健闘しましたが、これまで主力事業であった求人媒体においては求人広告掲載件数が回復傾向になったものの前年対比では大きく減少しており、また新型コロナウイルス感染拡大による渡航禁止等の影響を受けた海外人材事業の停滞等もあり、セグメント売上高は34億4百万円(前年同四半期比18.0%減)、セグメント損失は1億34百万円(前年同四半期セグメント利益87百万円)となりました。

・葬祭セグメント

葬祭セグメントは、当社子会社の東京博善株式会社により、火葬炉併設の総合斎場を都内6カ所で運営しております。東京博善株式会社は、株式併合により、2020年3月31日に当社の完全子会社となっております。

当セグメントでは、火葬取扱い件数は前期に比べ増加傾向にありますが、コロナ禍の影響により葬儀の簡素化、来場者の減少傾向が顕著になり、式場利用の単価下落や火葬中の休憩室の利用率減少、菓子飲料等の売上減少等が継続しました。その結果、当セグメントの売上高は59億36百万円(前年同四半期比8.3%減)、セグメント利益につきましては16億21百万円(同14.2%減)となりました。

なお、東京博善株式会社は、2021年1月4日より火葬料金の改定を実施しております。

(ご参照：東京博善株式会社ホームページ：<https://www.tokyohakuzen.co.jp/info/company.html#info>)

(2) 財政状態に関する説明

・資産

当第3四半期連結累計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて159億14百万円減少しております。主な要因は、2020年3月における東京博善の株式併合に伴う端数となった株式の自己株式取得等による「現金及び預金」の減少によるものであります。

・負債

当第3四半期連結累計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて154億2百万円減少しております。主な要因は、2020年3月における東京博善の株式併合に伴うみなし株式取得等による「流動負債その他」の減少によるものであります。

・純資産

当第3四半期連結累計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて5億11百万円減少しております。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失3億31百万円を計上、その他有価証券評価差額金1億81百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、2021年3月期における特別損失を計上する見込みであり、本日別途公表する「特別損失の計上に関するお知らせ」をご参照ください。また、本日開催の取締役会で、2021年3月31日を基準日とする剰余金の配当を行わないこと(無配)を決議しましたのでお知らせいたします。

業績予想は現時点において入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。

なお、業績予想につきましては、2020年11月9日公表の「2021年3月期第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」から変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	25,769	14,161
受取手形及び売掛金	5,998	4,419
有価証券	1,000	1,000
商品及び製品	405	462
仕掛品	622	1,189
原材料及び貯蔵品	200	197
その他	1,061	1,560
貸倒引当金	△223	△97
流動資産合計	34,834	22,892
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	16,195	15,389
機械装置及び運搬具（純額）	4,789	4,641
土地	14,429	13,944
工具、器具及び備品（純額）	2,738	2,701
その他（純額）	386	323
有形固定資産合計	38,539	37,000
無形固定資産	697	583
投資その他の資産		
投資有価証券	4,948	3,348
その他	3,223	2,542
貸倒引当金	△81	△109
投資その他の資産合計	8,089	5,781
固定資産合計	47,326	43,365
繰延資産	29	18
資産合計	82,190	66,276
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,181	2,509
短期借入金	3,100	1,100
1年内返済予定の長期借入金	6,120	6,224
1年内償還予定の社債	650	600
未払法人税等	280	299
賞与引当金	304	70
事業構造改革引当金	872	—
その他	15,254	2,710
流動負債合計	28,763	13,513

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>固定負債</b>		
社債	820	520
長期借入金	17,304	18,416
繰延税金負債	1,487	1,384
再評価に係る繰延税金負債	139	139
役員退職慰労引当金	21	—
退職給付に係る負債	15	16
その他	2,637	1,796
<b>固定負債合計</b>	<b>22,426</b>	<b>22,273</b>
<b>負債合計</b>	<b>51,189</b>	<b>35,786</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,000	1,001
資本剰余金	6,753	6,754
利益剰余金	22,651	22,156
自己株式	△6	△6
<b>株主資本合計</b>	<b>30,399</b>	<b>29,906</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	1,177	996
土地再評価差額金	△623	△459
為替換算調整勘定	△72	△75
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>481</b>	<b>461</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>120</b>	<b>122</b>
<b>純資産合計</b>	<b>31,001</b>	<b>30,489</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>82,190</b>	<b>66,276</b>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	25,490	21,787
売上原価	18,550	15,788
売上総利益	6,939	5,998
販売費及び一般管理費	5,668	5,128
営業利益	1,271	869
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	74	66
その他	170	315
営業外収益合計	246	382
営業外費用		
支払利息	127	207
持分法による投資損失	2	77
その他	169	178
営業外費用合計	298	462
経常利益	1,219	789
特別利益		
固定資産売却益	1	60
投資有価証券売却益	5	147
事業構造改革引当金戻入益	—	200
特別利益合計	7	407
特別損失		
固定資産売却損	0	129
固定資産除却損	40	41
関係会社株式売却損	—	481
関係会社整理損	407	—
その他	76	320
特別損失合計	524	973
税金等調整前四半期純利益	701	223
法人税等	670	558
四半期純利益又は四半期純損失(△)	30	△335
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	501	△3
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△470	△331



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	30	△335
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	340	△189
為替換算調整勘定	15	△3
持分法適用会社に対する持分相当額	0	8
その他の包括利益合計	356	△184
四半期包括利益	387	△520
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△105	△515
非支配株主に係る四半期包括利益	492	△4

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

1. 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	情報	人材	葬祭	その他	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	14,854	4,150	6,470	14	25,490	—	25,490
セグメント間の 内部売上高又は振替高	50	11	—	—	62	△62	—
計	14,904	4,162	6,470	14	25,552	△62	25,490
セグメント利益又は 損失(△)	△354	87	1,890	△0	1,621	△350	1,271

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△350百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△350百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	情報	人材	葬祭	その他	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	12,442	3,404	5,936	4	21,787	—	21,787
セグメント間の 内部売上高又は振替高	35	241	—	—	277	△277	—
計	12,477	3,646	5,936	4	22,064	△277	21,787
セグメント利益又は 損失(△)	△206	△134	1,621	2	1,281	△412	869

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△412百万円には、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△414百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、経営管理区分及び組織の見直しを行ったことに伴い、「情報」セグメントから「情報」及び「人材」の2区分に変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。